

HKFA Technical Report

平成28年度北海道トレセンU-16リーグ
北海道体育大会サッカー競技 兼 第71回 国民体育大会サッカー競技 北海道選手選考会 (少年男子)

開催日時

平成28年6月18日(土)
19日(日)
7月1日(金)
2日(土)
3日(日)

会場

札幌サッカー
アミューズメントパーク
東雁来公園人工芝サッカー場

報告者

横田秀樹(U-16技術委員)

参加スタッフ

山橋貴史(JFA NTC)
畠山正樹(JFA NTC)
北原次郎(JFA NTC)
大西真司(札幌ブロック)
小林俊也(道央ブロック)
富居徹雄(道北ブロック)
及川真行(道南ブロック)
石尾浩一(道北ブロック)
河津良多(道南ブロック)
國井康之(道北ブロック)
鍋木正彦(札幌ブロック)
横田秀樹(道東ブロック)

1 事業の概要

6月18日(土)から7月5日(日)までの5日間で、5ブロック代表によるリーグ戦を実施した。

また最終日は、北海道代表とリーグ戦において選考した選抜チームによる試合も行い、8月上旬に行われる大阪招待、その後続く国体本大会の選手選考を行った。

2 攻撃

○ポジショニング

攻撃の目的(ゴールを奪う、ボールを失わない)から逆算したポジショニングを取り続けたい。単純に幅と厚みを取るだけでなく、相手の状況を「観た」なかで、いつどこに立ち位置を取ると目的が達成されるか、オフの良い準備(身体の向き、ステップワーク、タイミング等)も含めて習慣化したい。

○テクニク

オフの良い準備からオンに移った時の止める、蹴る、運ぶ等のテクニクも更なる向上を求めたい。次のプレーを選べる選択肢のあるボールの置きどころ、動きながらのコントロールの質、味方に時間を作る、あるいは次のプレーがしやすいパスの質のクオリティを上げたい。

○ビルドアップと

ポゼッション

速攻主体のチームが多かった。相手の守備組織を窺いながらというよりは、無理でも攻めきって簡単にボールを失う場面が多かった。GKを含めて、安全にボールを前方に運びながら相手の隙を突く意図的な攻撃を習得したい。



世界基準を日常に

日本のトップレベルを目指す北海道

5ブロックでの一貫指導体制の構築



公益財団法人 北海道サッカー協会
Hokkaido Football Association

○アタッキングサードの崩し

組織としてコレクティブに崩すことに課題を残した。個としてのソロで打開する場面が多く、攻撃側というより、むしろ守備側に問題がある場面が多かった。守備のクオリティが上がれば通用しない場面が多々見受けられた。

「いつ」というタイミングの共有や、「どこに」というスペースの共有をはかりたい。バイタルエリアで前を向く選手を意図的に作り、顔が上がった瞬間に大胆なアクションを起こし、スペースを創り、そのスペースを使うというコレクティブな崩しができるよう個人戦術、グループ戦術を引き上げたい。

○フィニッシュの正確性

最終局面の仕上げという意味では、フィニッシュの正確性、精度も求めたい。

3 守備

○1stポジション

攻から守に切り替わった瞬間に、どこに立ち位置を取るか、正しいポジショニングをとれない選手が多々いた。やられたくないスペース、コースをつぶしながらも、人をとりに行けるポジションをすばやく取りたい。また、ボール状況(相手のボールの持ち方やプレッシャーのかかり具合)を見ながら、初動(最初の1歩目)をすばやく取れる選手も少なかった。

○アプローチの質

1stDFの決定とともに、アプローチの質を高めたい。これは上記にも書いたボール状況により「予測」して初動を速くすることとも関係する。アプローチの距離を延ばす、ファーストタッチでかわされれない、本気で奪いに行く、連続で奪いに行く、これらの激しさ、厳しさは日常から意識して要求したい。

○1stDFと2ndDF

1stDFの粘り強い守備を求めたい。簡単に足を出してかわされたり、軽率なプレーが見られた。特にゴール前は身体を投げ出すことも求めたい。Onの守備なくして、2ndDF以降の守備は成立しない。その1stDFの守備状況から2ndDF以降の対応を変化していきたい。



4 GK

○1/11の役割

サイズやスタイルでは、将来性を感じさせる選手もいた。しかし、GKとしての指示の声、DFラインの裏のカバーリング、攻撃の第一歩としてのビルドアップへの参加及びディストリビューションの正確性、シュートストップの際の構えと姿勢等、改善すべき課題が多々あった。

指導者がFPと同じ要素については、日常から声掛けをするとともに、専門的な要素についてはブロックでGKコーチにトレーニングする機会を設けるなど、工夫したい。

5 まとめ

秋には地区別の対抗戦があり、来年度からはいよいよブロック対抗の国体に移行する。今回のトレセンリーグでも準備をしてきたブロックとその場で集まってトレーニングして試合に臨んだブロックと様々であったが、次年度からはブロックの本気の勝負が始まる。トレセンも惰性となり、どこかで勝負とかけ離れた雰囲気、漂っているのも事実で、とことんまで「勝ち負け」にこだわって取り組みたい。

また、北海道から世界基準の選手を育成していくために、まず指導者がサッカー理解を深めたい。各種講習会、トレセン等の中で、横のつながりを深め、形だけではなく本質を理解した指導者を増やしていくことが必須である。

その上で、選手にはしっかりと「基本の質」を追求したい。付焼刃的な技術・戦術ではなく、高いレベルで通用する判断を伴った技術・戦術である。

北海道のサッカーが今後ますます発展していくためには、指導者の質を上げることと、選手の強化を図ることは両輪として、同時に行わなければならない。最後にリーグ戦、学校行事等お忙しい中、選手を派遣して下さったチーム、保護者の皆様に感謝します。ありがとうございました。